

報告

地球で一番早い「世界天文年観望会」法雲寺

開催報告

小野 夏子☆

<はじめに>

2009年は、世界天文年。みなさんは、世界天文年がスタートした瞬間、どこで何をされていたでしょうか。本記事では、筆者が行った世界天文年、最初の天体観望会企画についてご報告する。みなさまの今後の天文普及活動の参考にしていただければ、幸いである。

<天文同好会サミットにて>

2008年12月6日（土）「天文同好会サミット」なる企画が東京都三鷹市の国立天文台を会場に開催された。全国の天文同好者を一堂に集結させようという試みである。

さて、その会合の最中、マイクを持って壇上に立った天文学者、渡部潤一氏は「うちの近所の神社にやってくる初詣客に星を見せる」と言い出した。「初詣」なのであるから、当然1月1日の話である。1月4日に「ぐんま天文台」をメイン会場にしての「全国一斉オープニングイベント」が予定されているのに、それを差し置いて1月1日にもう動き出してしまうというのである。確かに「世界天文年」は、2009年が始まると同時にスタートする。初詣の時には、既に世界天文年が始まっている。だから、ここで「世界天文年」の冠をつけた観望会を行っても決して早すぎることはない。

この話を聞いた私は、「2009年になる瞬間、自分がどこに居るか」を思い浮かべた。毎年、大晦日の晩には、実家へ戻り、親戚と過ごす…そうだ！毎年、除夜の鐘を撞きに出かける。16時46分、私は、国立天文台の「天文同好会サミット」の会場から法雲寺へとメールを

打った。法雲寺とは、私がここ近年、毎年のように除夜の鐘を撞かせていただいている愛知県豊田市内のお寺である。

メールの返事は、すぐに来た。サミット最中に2~3回のメールやりとり。住職の承諾をとりつけたのは、18時41分。最初のメールから2時間経っていなかった。「天文同好会サミット」は、懇親会の時間に入っていた。私は、今、了解を取り付けたばかりの「除夜の鐘・観望会」を会場のメンバーに語った。

<「除夜の鐘」「初詣」に行う観望会の目的>

このたびの観望会の大きな目的は、「世界天文年をより多くの人に知っていただくこと」であった。冬休みの寒い夜に「星を見ようよ」といったところで、大人も子供もしり込みするであろうことは、想像に難くない。しかし、「初詣」とか「除夜の鐘」となれば、多くの人が寒い夜道を出かけていく。また、これらのイベントに集まる人たちは、必ずしも星好き・天文好きとは限らない。これが良いのだ。より多くの人に、日ごろ星や宇宙にあまり関心を向けたことのない人に「世界天文年」を案内する絶好の機会である。

そのため、当初から「曇っても『世界天文年』を案内する書面は配布しよう」と考えていた。「2009年が、ガリレオ・ガリレイが望遠鏡で宇宙を見てから400年目の記念の年である」などを記した書面を配り、少しでも興味関心を持っていただければと思ったのだ。どのような天候であっても「除夜の鐘」が中止になることはない。

<事前準備>

事前準備としては、まず、第一に天体望遠鏡を借りる手配をした。そして、「世界天文年」の紹介印刷物の用意。これは、最初、自分で書くつもりだったのだが、望遠鏡メーカーからカラーの素敵な印刷物が出ており、それに「世界天文年」の記述もあるので、それを配布させていただく事にした。

当日、観望会を手伝うスタッフも必要だ。名古屋時代の星仲間の中に「ちょうど、北海道から帰省するから」と名乗りを上げてくれた友人があり、頼むことにした。また、親族（妹と小中学生の甥、姪）も手伝ってくれるという。総勢、10名。そんなメンバーのためにユニフォームを準備した。アイソテック社から売られている水色の「世界天文年」ブルゾンで10着。（発注時には、まだスタッフの人数が確定しておらず、適当に注文した。）

広報は、世界天文年の公認イベントに申請すると共に、ポスターを作り掲示した。会場である「法雲寺」の掲示板の他に地元のプラネタリウム「豊田産業文化センター」と「愛知教育大学」にも掲示を依頼した。また、地元 CBC ラジオ「つボイノリオの聞けば聞くほど『新生活フロッピー』」に妹の投稿が採用になり、12月24日放送された。

<大晦日・・・「除夜の鐘」当日>

当日は、晴天。夕刻からスタッフをやってくれる甥・姪と共に会場設営と望遠鏡の組み立て、試運転などを行った。甥の K.I.氏（中学2年生）の発案で、急遽、「天文グッズの抽選会」も開催することになり、その準備も行った。抽選の景品は、天文カレンダー、スター・ウィークの T シャツ、星座鉛筆、星の本、などである。

除夜の鐘の頃には、満天の星空が広がった。最微等級 4 等。住職からは、「毎年、除夜の鐘はやっているが、こんなに天気の良い日は

珍しい」とのお言葉があった。



図1 法雲寺の鐘楼（写真：小澤良之氏）

天体望遠鏡では、「M42」と「土星」を中心に観望。北海道からの星仲間が、持って来てくれた単眼鏡が、望遠鏡と並ぶ。こちらは、「M45」などを捕らえる。天体望遠鏡の操作を担当したのは、甥の M.I.氏（中学1年生）。彼は、その日初めて使用する屈折経緯台をあっという間にマスターし、天体の導入から望遠鏡ののぞき方の諸注意、天文解説まで、見事にこなした。

167名の参加者があった。（天文グッズの抽選会の開催に伴い、整理券を配布した。それを数えることで、参加人数を正確に把握することができた。）会場は、除夜の鐘を撞いているお寺門前。日ごろ天体望遠鏡を見る機会などほとんどない人がほとんどで、皆、珍しそうに覗き込んで行かれた。



図2 観望会の様子（写真：小澤良之氏）

＜感謝状を作ってみた＞

親族が中心だったのでスタッフへのお礼等は、特に用意していなかった。まあ、甥や姪には、お年玉をあげることはなっているが。北海道から来て手伝ってくれた星仲間には、「世界天文年のブルゾン」と抽選会の景品にしていた天文カレンダーと私の書いた「星と宇宙を知りつくす本」をプレゼントした。

しかし、年が明けてから、急に気が変わった。手伝ってくれた方、協力いただいた方に「感謝状」を出すことにしたのだ。

実家で、父のパソコンとプリンターを借りて、礼状代わりに表彰状のような「感謝状」を作成。ガリレオ君の「世界天文年マーク」入りのものができた。

これらは、甥・姪が年始に来たときにお年玉と共に手渡した。また、ポスターを貼っていただいた施設、ご協力いただいた企業などへは、メールにて送付した。

＜後日談＞

今回の観望会の企画は、お寺にも好評だったようで、「今年の除夜の鐘の時にもやってくれるだろうか？」と仰っていただいているようだ。（えーっ！「除夜の鐘」なんて言わないで・・・世界天文年の間に何回もやりましょーよ。）

この企画の優れているところは「世界天文年のうちにもう一回開催できる」こと。今年も「除夜の鐘と共に『世界天文年観望会』法雲寺」を開催することにしよう。（協力者募集！）・・・今から、大晦日の天気が心配だ。

＜データ＞

- ◆企画名：地球で一番早い「世界天文年観望会」法雲寺
- ◆日時：2008年12月31日23時～
2009年1月1日1時

- ◆会場：法雲寺（愛知県豊田市土橋町 8-6）
門前
 - ◆内容：望遠鏡による天体観望（M42 と土星）、
天文グッズの抽選会
 - ◆参加費：無料
 - ◆参加者数：167名（抽選券の配布枚数でカウント）
 - ◆スタッフ：10名（望遠鏡操作、天体解説、
誘導・整理、抽選会対応など）
 - ◆広報：愛知教育大学、豊田産業文化センター、
CBC ラジオ
 - ◆協力：株式会社ビクセン
- *世界天文年の公認イベントに申請。

小野 夏子☆